



Title	太宰治スタディーズ 第4号 目次
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2012, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97706
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「太宰治スタディーズ」第4号（2012.06） 目次

イントロダクション——「一九三九年」の甘い誘惑

井原 あや 4

小特集 「一九三九年」——編月体でみる話題作とメディア

小澤 純	一月	——三者三様の従軍作家と〈銃後〉の短篇小説	8
滝口 明祥	二月	——野生の魅力、或いはインテリの生きづらさについて	12
井原 あや	三月	——近頃流行りの「何とか文学」と中里恒子の芥川賞	16
青木 京子	四月	——岡本かの子追悼・戦記	20
松本 和也	五月	——富澤有為男「東洋」と岡本かの子遺稿群	24
斎藤 理生	六月	——反・長篇小説の機運	28
内海 紀子	七月	——「女流作家」の進出・大家の小説	32
平 浩一	八月	——「素材派・芸術派論争」の推移と「無意味」化の問題	36
長原しのぶ	九月	——芥川賞作品と時局批評の対置構造	40
大國 眞希	一〇月	——文章の力を信仰する作家の追悼と文学を超えようとした「こをろ」の産声	44
吉岡 真緒	十一月	——リアリティのありか	48
野口 尚志	十二月	——一年間の概観と作家が個を打ち出すこと	52

総特集 〈一九三九年〉——研究論文

- 大國 眞希 小説に倍音はいかに響くのか、言葉はいかに生成するのか→太宰治「I can speak」前後ロコス
 小澤 純 《感謝の文学》の射程——「富嶽百景」への遠近法
 滝口 明祥 断片とモンタージュ、或いはアレゴリー化する近代——太宰治「富嶽百景」
 野口 尚志 太宰治「秋風記」論——空虚な「私」はどこへ帰ったか
 長原しのぶ 山岸外史『人間キリスト記』の影響と可能性——「葉桜と魔笛」を中心に——
 斎藤 理生 『八十八夜』の〈笑い〉
 平 浩一 太宰治「八十八夜」と〈初期実験作〉——一九三九年のパラダイムチェンジ——
 吉岡 真緒 太宰治「皮膚と心」論——記号性の消失、無効化される権力

……〈一九三九年〉との接続

- 青木 京子 太宰治の志賀文学批判——「女の決闘」・一九三九年の作品
 内海 紀子 ミメーシスの転進——太宰治「女の決闘」と「鷗」における「ものを見る眼」
 松本 和也 戦場というモチーフをめぐる媒介／触発——田中英光「鍋鶴」と太宰治「鷗」
 井原 あや 奇妙な二役——太宰治「葉桜と魔笛」と映画「真白き富士の嶺」

書評

- 松本和也著『太宰治の自伝的小説を読みひらく』（立教大学出版会） 水川 敬章

著者紹介・編集後記